

# 平成22年度市政執行方針

した食文化、アイヌ文化、体験・交流・学習の場を活用し、広域観光の魅力向上に努めてまいります。



▲北海道登別洞爺広域観光圏協議会の様子

## 担い合う まちづくり

地域経済と市内産業の活性化への取り組みは、その効果を発揮するまでに多くの時間を要するものとは思いますが、これらの取り組みは、市民の皆さんが登別市を活力のある豊かなまちにしたいという希望を共有し、市内の人材を集めて共に取り組む『担い合うまちづくり』に参画していただくことが肝要であります。わたしは、これまで、まちの活性化、まちづくりの推進には『市民力』の結集が何よりも大切であると申し上げてまいりました。

行政だけでは決して十分とは言えず、子どもたちの輝く笑顔と力強い産業活動、豊かな自然と先人たちの知恵、そして、何よりも市民の皆さん一人一人の情熱をもって輝くまちづくり活動が展開されることで、この登別市はまばゆい光を放つと強く信じております。

◎市民活動団体の活動拠点『市民活動センター』

平成22年度は、この輝く市民力を結集し、まちづくりを推進する原動力である市民活動団体の活動拠点となる『市民活動センター』が3月末から稼働します。

『市民活動センター』は、これまでの公共施設と性格が異なり、行政が事業を展開する場ではなく、市民活動団体がそれぞれ得意とするジャンルで自主的に行う活動を通じて、市民の生涯学習の一翼を担う活動を展開するとともに、『市民活動センター』を拠点に活動する市民や市民活動団体が互いの活動を認め合いながら、互いに支援し、市民活動のすそ野の広がりをもたらすための施設であります。

この市民活動センターの活用については、今後も市民の皆さんとの対話を重ねて、市

民活動の活性化につながるよう努めてまいります。



▲市民活動センター

## ◎市制施行40周年に向けて

また、平成22年度は、昭和45年にわたしたちの町が市となつてから40年目を迎え、まちの活性化という共有の目的に向かつて市民と行政がまちづくりを加速するきっかけづくりの年として、『3つの視点』と『3つのまちづくり』に基づく将来の登別市について共通の認識を深める年にしたいと考えております。

## ◎安定した市政運営と 定住自立圏構想の活用

そして、安定した市政運営を図るため、市役所としては『健全な財政運営』と『行政力の向上』に力をそそぐこととし、集中改革プランを検証した後、平成23年度以降の新たな中期財政見通しの策定や行政改革基本計画および実施

計画の策定に取り組むほか、近隣市町と連携し、医療や観光などの拡充を図る定住自立圏構想の活用について検討してまいります。

## おわりに… 柔軟で挑戦し続ける 市役所づくり

平成22年度の市政執行に関する基本的な考えを申し上げますが、先ほどから申し上げておりますまちづくりを進めるためには、『柔軟で挑戦し続ける市役所づくり』に取り組む必要があります。

刻一刻と変わる時代の流れを的確に把握し、行政は何をすべきなのか、市民生活を起点とした市政運営を行う上で何が必要なのか、

『できない理屈』  
『考える市役所ではなく  
『できる理屈』  
を考える  
『柔軟で挑戦し続ける  
日本一の市役所づくり』

に向け、継続して挑んでまいります。

## ◎『対話の力』の向上

そして、市民からの信頼を得ながら、市民とともにまちづくりを進めるためには、市

職員の意識改革が何よりも大切でありますし、『対話の力』をこれまで以上に職員一人一人が身に付けなければなりません。

これまで行つてまいりました地区懇談会や地区課題の把握、市長室フリータイム、市職員出前フリートークなどに加え、地域の窓口として支所のさらなる活用を図るなど、『対話の力』の向上に努めてまいります。

人の心を動かす、登別の未来を素晴らしいものにするまちづくりの根幹を支えるのは、熱意と誠意を持った『対話』であります。誠実な対話と飽くなき挑戦の先に、登別の未来が、光明が見いだせるのではないでしようか。

解決に向けた挑戦する気持ちを失わず、懸命の努力を重ねた先に誰もが望む未来が待っているとなつては信じております。

わたしは、より一層、多くの人から信頼をいただけるよう、職員とともに市民とこれまで以上に対話を重ねて、果敢に挑戦してまいります。

議員の皆さん、市民の皆さんのご理解とご協力をお願い申し上げます。わたしの市政執行方針といたします。